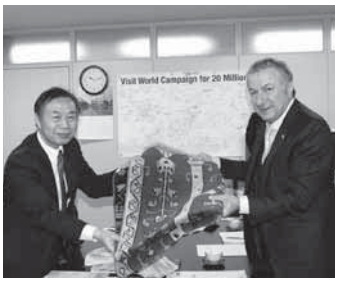
要人往来

今年1月の日本人出国者数は前年同月比1.2%減の123万8000人で、マイナスにはとどまったものの下げ止まりを示し、回復への兆しを感じさせました。JATA本部を訪れる皆さんも反転上昇に期待を寄せています。

タヒチ政府観光局のポール・スローンCEO（中央左）


トルコ旅行業協会のウルソイ・バサラン会長（右）と中村理事長

大連市観光局の王舒岩副局長

在日米国大使館の百合・アン・アーサー上席商務官（中央左）

田川会長を囲むシアトル観光局のジャネット・クリストファー本部長（左）とジョン・ブーシェイ観光マネージャー（右）

英国政府観光庁のキース・ビーチャム海外ネットワークディレクター

新セグメントの開発で客層を多様化

タヒチ　1月22日（木）

ポール・スローン　タヒチ政府観光局CEO

中村理事長らを訪れ、「日本からの観光客数が伸び悩んでいるため、ブランドの刷新や日本語サイトのリニューアル、旅行業界との関係強化などの対策を考えており、新たなセグメント開発による客層の多様化も図りたい」と説明。中村理事長らは、「PRの強化や新規ツアー商品などを通じて観光需要の回復に努めてください。JATAとしても協力していきたい」と応じました。

観光地が多い西部は安全

トルコ　1月26日（月）

ウルソイ・バサラン会長　トルコ旅行業協会（TURSAB）会長

中村理事長を訪問し、「隣国との関係などからトルコ観光の安全性が懸念されているようだが、観光客が巻き込まれた事件は発生しておらず、観光地が多い西部は安全です。エフェス市で開催される“TRAVEL TURKEY IZMIR Tourism Fair and Congress 2017”では、日本の文化と歴史がテーマとして予定されている」とアピール。中村理事長らは、「イスタンブールやアンタリャ県の魅力と安全性を一般消費者に積極的にアピールする必要があります」と応えました。

地方との双方向交流を拡大

大連　1月30日（金）

王舒岩　大連市観光局副局長

中村理事長を訪れ、「大連にとって日本の地方との交流は重要で、現在の岡山県をはじめとする双方向交流で理解を深め、観光客を増やしていきたい。また、様々なイベントも開催しており、大連のPRに協力してほしい」と要請。中村理事長らは、「『ツーリズムEXPOジャパン2015』に出展すれば、多くの人々にアピールできるので、ぜひ、参加してください」と助言しました。

Team EUROPE事業への参画を

英国　1月28日（水）

キース・ビーチャム　英国政府観光庁（Visit Britain）海外ネットワークディレクター

中村理事長らを訪れ、「VBのPR政策にはイメージ、アクセス、ディストリビューション、商品という4つの柱があり、日本ではイメージと商品に力を入れている。日本からの観光客は減少傾向にあり、現在の戦略に加えるべきことを聞かせてほしい」と要請。越智事務局長は、「旅行会社にアプローチして商品を消費者に紹介してもらう必要がある。JATAが展開している商品企画支援活動のTeam EUROPE事業に参画し、ツーリズムEXPOジャパンに出展すれば、日本人観光客が増えるでしょう」とアドバイスしました。

素材のストーリーを活かして商品提供を

シアトル　1月29日（木）

ジャネット・クリストファー　シアトル観光局本部長

ジョン・ブーシェイ観光マネージャーと田川会長を訪問し、JATAの協力に謝意を表し、「シアトルの観光促進を継続するので引き続き協力をお願いしたい」と依頼。田川会長らは、昨年シアトルで開催されたJATA海外役員会時の対応に感謝するとともに、「素晴らしい素材に関するストーリーを活かした商品提供で観光客が増えるでしょう」と応じました。

ツーリズムEXPOジャパンへの参加を推奨

米国　2月10日（火）

百合・アン・アーサー　在日米国大使館上席商務官

新任挨拶で中村理事長を訪問し、「米国商務省による認定見本市制度の枠で、大使館として米国の旅行会社を対象にツーリズムEXPOジャパンへの継続的参加を推奨すると同時に、インターナショナル・パウワウへの参加募集活動も行っています。また、4月には大使館で教育旅行セミナーも開催します」と説明。中村理事長は、「双方のイベントが盛り上がるよう相互に協力を進めていけるようにしたい」と応じました。